

Q 1 1 社会教育主事有資格教員に期待されていることはどんなことか。

A : 地域に開かれた学校づくり、子どもたちの「生きる力」を育む豊かな教育活動推進のために、社会教育主事有資格教員には「学校と家庭、地域社会の連携協力の推進役」としての大きな役割が期待されている。

学習指導要領の理念である「生きる力」を育むためには、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力が必要不可欠である。

子どもたちの生きる力は、学校教育と学校外活動があいまって、心身ともにバランスのとれた育成が図られるものであるため、学校には、家庭や地域住民とともに子どもたちを育てていくという視点に立った教育活動の展開や、地域社会の核としての開かれた学校づくりが求められている。

こうした状況をうけて、学校教育と社会教育の両方の知識を持ち合わせた社会教育主事有資格教員の活躍の重要性が増大しており、栃木県では、学校・家庭・地域社会が連携協力し、地域における教育活動を総合的に推進するために、社会教育主事有資格教員の1校1名配置を目指し、計画的に養成を行っている。

(教員が社会教育の視点を併せ持って学校教育を展開することが重要であり、社会教育主事有資格教員が学校現場において社会教育を実践することを求めているものではない。)

【社会教育主事有資格教員はこんな力を持っている】

1 日々の学校教育実践を変える力

- (1) 生涯学習や社会教育に関する知識や理念を学習したことによって、学校を自己完結的にとらえない視点を持っている。つまり、有資格教員は、地域住民との連携が学校教育の質を確実に高められることを知っており、行政職員や地域住民とのネットワークなどにより、多様で広範な教育資源（地域の専門家や関係機関など）を活用し、教育活動を充実させることができる。
- (2) ややもすると保護者に対して非協力的であるといった印象を持ったり、学校支援ボランティアなどの地域住民を、学校からの一方的な視点で活用の対象と捉えたりしがちであるが、社会教育主事有資格者は成人教育の視点をもって、保護者や地域住民を教育責任の分担者・パートナーとして捉えることができる。

- (3) 社会教育主事講習や社会教育主事有資格者研修で身につけた、学習者の特性を考慮した指導技術や参加体験型学習（ワークショップ）などの手法は、日々の教科指導はもとより、PTA活動や保護者会の企画運営、現職教育の充実、地域住民との連携協力を生かすことができる。

2 自らが持つ、特技、技能、資格、技術を地域で活用する力

社会教育主事講習では、「教員自身も個々に持っている知識や技術は、学校内に閉じられて活用されるべきものではなく、地域の資源として、地域づくりのために還元していくことが望まれる」ことを学んでいる。開かれた学校づくりにおいて、教員のもつ教育機能を地域づくりに生かすことは今後の大きな課題であり、その先駆的な役割を社会教育主事有資格教員が担うことが望まれる。

【社会教育主事有資格教員が活躍できる環境づくりについて】

- 1 社会教育主事有資格者を校務分掌上の生涯学習推進係に位置づける。
ただし、学校の実情に応じて必ずしも主担当でなくともよい。
- 2 有資格者が複数名いる場合は、部会を設置し活動できると有効である。
- 3 学校評議員会等への出席により学校経営に参画できるようにしたい。
- 4 学校が支援ボランティアを導入する際に、校内コーディネーター（学校と地域住民の調整役）として位置づけると一層の活躍が期待できる。
- 5 授業研究会や職員会議などで、参加者の意見を有効に引き出し、話し合いを促進させる「ファシリテーター」として活躍できるようにしたい。
- 6 PTA（社会教育団体）研修や学校で行う家庭教育学級（社会教育との融合）などの学習プログラムの企画・開発に携われるとよい。

参考資料

- ・ [社会教育主事有資格者の活動事例](#)
「[地域に開かれた学校づくり、より豊かな教育活動のために](#)」 H22.1 県教委
- ・ [「社会教育主事有資格教員の活動に関する調査研究」](#) H19.3 県総教セ